

看護学科 講義要綱

科目	看護管理	単位	1	開講時期	3年後期
授業形態	講義・演習	時間数	15	必修区分	前期
担当者	認定看護管理者：岩崎 厚子(12) 看護師：水谷 美由紀 (4)				
授業目的	看護活動が円滑に行われるために必要な看護管理について理解し、看護職者としてのリーダーシップについて学ぶ。				
到達目標	看護をしくみとしてとらえ、よりよい看護を提供できるかを追求する視点をもつことができる。				
授業概要	講義や演習を通し、看護師は社会に対し、どのような機能や責務があるか考				
授業方法	講義・演習を対面授業で行う。				担当
	1	看護管理とは			水谷
	2	病院における看護管理			水谷
	3	看護職のキャリアマネジメント			岩崎
	4	看護サービスのマネジメント			岩崎
	5	マネジメントに必要な知識と技術			岩崎
	6	看護を取り巻く諸制度			岩崎
	7	看護管理のマネジメント演習			岩崎
	8	看護管理のマネジメント演習			岩崎
		終了試験			
履修条件	これまでに履修した看護の役割についての集大成ともいえる科目である。看護師は社会に対し、どのような機能や責務があるか考える授業となるので、自分の考えを論述したり、口述できる力を発揮してほしい。				
評価方法	筆記試験（配点：水谷 30点・岩崎 70点）				
テキスト	系統看護学講座 専門分野 看護管理 医学書院				
参考書	雑誌「看護展望」メヂカルフレンド社 雑誌「看護管理」医学書院 新版 看護者の基本的責務 日本看護協会監修 日本看護協会出版社 看護六法 新日本法規 もし高校野球の女子マネージャーがドラッカーの『マネジメント』を読んだら 岩崎夏海 ダイヤモンド社				
備考					

看護学科 講義要綱

科目	看護研究	単位	1	開講時期	3年前期
授業形態	講義・演習	時間数	30	必修区分	必修
担当者	看護師 玉木 恭子				
授業目的	研究力の基礎を養う				
到達目標	1. 看護専門職者として看護における研究の意義・目的を知る。 2. 研究の種類・プロセスを知る。 3. 先行研究の分析をする 4. 文献検討を用い、看護実践の意味や課題を明確にする。 5. 研究における倫理的配慮について解釈を述べる。				
授業概要	研究力の基礎を講義・ワーク・プレゼンテーションを通し学習する。				
授業方法	講義・演習を対面授業で行う。 研究担当教員と面談方式でケースレポートの精練。				
講義またはGW	1	オリエンテーション・授業全体の課題 看護研究とは何か・研究の倫理的配慮			
	2	看護研究であるものないもの ケースレポートと事例研究 ケースレポート提出書式について 事例を概念化する演習			
	3	文献・文献の種類 データベースの活用 文献整理の方法			
	4	研究疑問を精練するとは 研究計画書について 研究デザイン・文献の種類文献検討について			
	5	クリティークについて 例文でクリティークしてみよう（ワーク）			
個人ワーク（担当教員との面談）・講義・GW	6	ケースレポート作成の道のり（担当教員・発表などについて）			
	7	ケースレポート			
	8	ケースレポート			
	9	ケースレポート			
	10	ケースレポート			
	11	ケースレポート 看護研究における倫理的配慮の再確認			PPの作成
	12	ケースレポート			

研究発表	13	プレゼンテーション	研究成果発表を各ブースに分かれて実施する
	14	プレゼンテーション	
	15	プレゼンテーション	
履修条件	再試験を受験する場合は、要件として課題レポートが出されていることが前提となる。		
評価方法	パフォーマンス評価（経過・ケースレポート用）80点 筆記試験 20点		
テキスト	系統看護学講座 専門分野 看護研究		
参考書	看護学生のためのケース・スタディ		
備考			

看護学科 講義要綱

科目	地域・在宅看護の方法Ⅲ	単位	1	開講時期	3年後期
授業形態	講義・演習	時間数	30	必修区分	必修
担当者	訪問看護認定看護師 稲葉 一代 (10) ・看護師 石島 祐美 (20)				
授業目的	暮らしや生活者と看護の視点を持ち、地域包括ケアシステムの中の看護の役割を理解する				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 地域・在宅看護論実習での体験や学びをもとに在宅療養者と家族が抱える問題を生活の問題として明確にする 2. 地域・在宅看護での援助方法について、在宅看護の特徴と照らして考えることができる 3. 多職種との連携の実際を理解する 4. 訪問看護ステーションの機能・制度について理解する 5. 地域・在宅看護に必要な社会保障制度やサポートシステムについて理解する 6. 地域包括ケアシステムの実際と関連職種との連携協働について理解する訪問看護ステーションに関する法律・制度を理解する。 				
授業概要	1年生・2年生での学び（講義・演習・実習や法制度、サポートシステムなど）を基本にし、それらを発展させる授業をなっています。訪問看護ステーションの設立と領域別事例からの支援マップを作成します。事例の違いや、マネジメントの違いがら個別性のある支援マップを作成していきます。他のグループとの相違を発見し、自分たちの力にしていってください。地域・在宅看護の実際や活用について知り、よりよい看護を追求するための方法を講義・演習を通して学ぶ。				
授業方法	講義・演習を対面授業で行う。				
	1	地域包括ケアシステム・4つの助と看護について			石島
	2	地域・在宅で暮らす中での看護の役割（継続看護・看看連携・多職種協働・法制度含む）			稲葉
	3	訪問看護ステーションについて			
	4	訪問看護ステーション設立のGW			
	5	訪問看護ステーションの設立GW			
	6	訪問看護ステーション設立についての発表			
	7	事例別地域包括ケアシステムマップの作成			
	8	事例別地域包括ケアシステムマップの作成			
	9	事例別地域包括ケアシステムマップの作成			
	10	事例別地域包括ケアシステムマップの作成			
	11	事例別地域包括ケアシステムマップの作成			
	12	事例別地域包括ケアシステムマップの発表・評価			
	13	事例別地域包括ケアシステムマップの発表・評価			

	14	事例別地域包括ケアシステムマップの発表・評価	
	15	終了試験	
履修条件	1・2年生における地域・在宅看護に関する講義をすべて履修が終了していること。試験を受けるにあたり、授業時間数が条件を満たしていること。		
評価方法	配点 筆記50点 GW評価40点（自己評価・他者評価） 課題提出出席状況10点。		
テキスト	系統看護学講座 専門 地域・在宅看護の基礎 医学書院 系統看護学講座 専門 地域・在宅看護の実践 医学書院 医療福祉総合ガイドブック 医学書院 在宅で療養と介護を支える制度のかしこい使い方 医学と看護社		
参考書	看護師・看護学生のためのレビューブック メディックメディア		
備考			

看護学科

講義要綱

科目	災害看護	単位数	1	開講時期	3年後期
授業形態	講義、グループワーク	時間	15	必修区分	必修
担当者	佐藤みつ子(6) 看護師 和田 愛(9)				
授業目的	災害時における看護活動について理解することができる。				
到達目標	災害が社会の変化や地域の人々の暮らしと密接に関係しながら人々の生命や生活に影響を及ぼすことを理解する。そこから、生命や健康生活への影響を最小限にとどめようとする看護活動について学ぶ。				
授業概要	近年、災害発生件数は増加し、被害も拡大傾向にあります。私達は、自然・社会の中で生きています。災害は人間が生きて生活する中で起こる出来事として認識し、日本のみならず世界の情勢や社会の変化にも視野を広げ、様々な情報の中で災害看護を学べるよう臨んでください。 いつ発生するかわからない災害に対処するため、すぐに使える知識を身につけられるよう、真剣に取り組みましょう。				
授業方法	講義で概要をおさえた後、実技による技術習得を目指します。				
授業展開	回数	内容	準備等		
	1	災害看護概論 災害看護の定義と役割	講義		
	2	災害のサイクルに応じた看護活動			
	3	災害時の看護活動の実際 CSCATTT、トリアージ実演	講義・演習		
	4				
	5				
	6	地域防災を考える ハザードマップをもとに	グループワーク		
	7	グループワーク、発表			
8	終了試験				
履修条件					
評価方法	出席日数、授業態度（グループワークへの参加姿勢を含む）、筆記試験				
テキスト	系統看護学講座 専門分野 看護の統合と実践[3] 災害看護学・国際看護学 医学書院				
参考書					
備考					

看護学科

講義要綱

科目	国際情報論	単位数	1単位	開講時期	3年生前期
授業形態	講義	時間	30時間	必修区分	必修
担当者	看護師 田島堅都（4） 玉木恭子（16） 濱井妙子（6） 白井千晶（4）				
授業目的	様々な人の暮らしや医療や看護体制を学ぶことで国際的な視野を広げる				
到達目標	国際社会における看護の活動領域の理解を深めるため、国際看護を学び、看護師に期待される国際協力を理解する。さらに、国際看護を理解することで、多様な価値観・異文化の理解に役立て、国際的視野を広げ、自己に期待される役割に気づく。				
授業概要	様々な形での国際化が進んでいます。それは医療・看護の場でも同様です。対象の多様な価値観・異文化を講義やグループワークそして、実際に他国で看護を提供した経験がある看護師からの講義を通じて学びます。				
授業方法	講義・GW				
授業展開	回数	内容		担当	
	1	国際看護学、国際情報論とは		玉木	講義
	2	諸外国の保健医療福祉の動向と問題②		濱井	講義
	3	諸外国の保健医療福祉の動向と問題①			
	4	在日外国人における保健医療の問題			
	5	文化人類学の概要		白井	講義
	6	医療人類学の概説、医療と文化の関係			
	7	SDGs ①		玉木	講義・GW
	8	SDGs ②			
	9	世界の健康課題、紛争			
	10	諸外国と日本の医療福祉制度			
	11	諸外国と日本の感染症に関する課題			
	12	国際紛争とその地域に暮らす人々		田島	講義
	13	国際協力機構（JICA）の概要			
	14	現地での活動紹介、開発途上国が抱える課題			
	15	終了試験			
履修条件	社会学の履修が終了していること				
評価方法	出席日数 授業態度 グループワーク グループワーク参加状況 筆記試験…20点				
テキスト	系統看護学講座 災害看護 国際看護 医学書院				
参考書	適時、提示します。				
備考					

看護学科

講義要綱

科目	看護技術の統合	単位数	1単位	開講時期	3年次
授業形態	グループワーク・演習	時間	30時間	必修区分	後期
担当者	玉木 恭子				
授業目的	既習の知識・技術を統合し対象に応じた看護を実践する能力を養う				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・複数患者の事例をアセスメントしケアの優先度、時間配分、その根拠を考え1日の行動計画を立案することができる。 ・時間の経過とともに新たな患者情報への対応と行動計画を変更し調整することができる。 ・模擬患者に看護技術の目的・根拠を考えた看護を実践することができる。 				
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・事例の複数患者を受け持つためのアセスメント、優先順位と根拠を踏まえた1日の行動計画を個人、グループで立てます。 ・模擬患者に既習の知識と技術を統合させ対象に応じた看護を実践します。 				
授業方法	講義・グループワーク				
授業展開	回数	内容	準備等		
	1	複数患者の事例展開 <ul style="list-style-type: none"> ・複数事例のアセスメントを行う。（事前課題） ・優先順位の判断と時間配分を考慮した1日の行動計画を立てる。（事前課題） ・グループ内でアセスメントについて意見交換を行う。 ・意見交換を踏まえグループ内で記録をまとめて完成させる。 	講義 2人の患者を同時にどのように受け持つか表現してください。 複数の事例患者のアセスメント、1日の行動計画を立て授業に臨んでください。		
	2	複数患者の事例展開 <ul style="list-style-type: none"> ・1日の行動計画についてグループ内で意見交換する。 ・意見交換を踏まえ優先順位、根拠、患者の状況を踏まえた1日の行動計画をグループで立てる。 1日の行動計を立てる。 ・計画の根拠を明確にして目標が達成できるための計画を立てる。 ・チームリーダーへの報告、休憩時の引継ぎ内容も考え計画を立てる 	グループワーク		
	3	複数患者の事例展開 <ul style="list-style-type: none"> ・事例患者の朝の情報から行動計画を修正する。 ・新たに得られた情報（カルテ、朝の患者の様子、申し送り）をもとに計画を修正する。 	グループワーク		

4	<p>複数患者の事例展開</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1日の経過とともに変化していく患者を捉え追加情報からアセスメントを行い必要な援助を考える。 ・追加する援助が実施できるために1日の行動計画を修正する。 ・看護師とどのように調整するのか、優先順位や援助の根拠も明確にする。 ・発表資料の作成、印刷、配布 ・発表に進行と方法（司会者・発表形式・順番・必要物品）について決める。 	グループワーク
5	成果の発表：学びの共有と評価	事例展開発表
6		
7	<p>新たな患者の事例展開</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループ内で事例患者のアセスメント、意見交換、修正と看護計画立案 	グループワーク
8		
9	<p>模擬患者に知識と技術を統合した看護の実践</p> <ul style="list-style-type: none"> ・模擬患者へ看護を実践できるためのアセスメント・発表に向けての練習 	グループワーク
10		
11		
12	<p>模擬患者への看護の実践の発表</p> <p>演習発表 場面1～4</p> <p>発表→振り返り→質疑応答→模擬患者からのコメント→まとめ</p>	演習発表
13		
14		
15		
履修条件	形態機能学・病態生理学・薬理学・成人看護の方法の履修が終了していること	
評価方法	課題の提出状況・内容、グループワークの参加状況、演習の参加状況（パフォーマンス評	
テキスト	<p>系統看護学講座 専門分野 基礎看護技術Ⅱ</p> <p>系統看護学講座 専門基礎 解剖生理学</p> <p>系統看護学講座 専門分野 成人看護学</p> <p>系統看護学 別冊 がん看護</p> <p>系統看護学講座 専門分野 医療安全</p>	
参考書		
備考	<p>35：創傷処置 39：経皮・外用薬の塗布 44：点滴静脈内注射の管理 45：薬剤等の管理（抗悪性腫瘍）47：緊急時の応援要請 51：バイタルサインの測定 52：フィジカルアセスメント 58：必要な防具の選択・着脱 59：使用した感染性廃棄物の取り扱い</p> <p>63：インシデント・アクシデント発生時の速やかな報告</p> <p>69：安楽な体位の調整 67：人体へのリスクが大きい薬剤にばく露予防策の実施 68：医療機器の操作・管理 70：安楽の促進・苦痛の緩和のためのケア</p>	